

福祉

身近な ユニバーサルデザイン (トイレ洋式化) 推進事業

佐賀県

洋式トイレを増やし、街のバリアフリー化も

- ・高齢化や外国人観光客増加の中、誰もが安心して外出できる環境づくりの一環として、来客用トイレがある民間施設や公共施設に対し、和式から洋式への便器取換え、ブース改修・増設などの費用の一部を補助。温水洗浄便座やベビーチェア設置も対象。
- ・手すり設置やスペース改修、段差解消のための費用等も補助対象工事費として認可。街のバリアフリー化に貢献。
- ・管理者に対し、定期的な清掃等、適切な管理を依頼。
- ・多くの補助申請者、トイレ利用者から喜びの声あり。
- ・2013年11月の事業開始から2015年3月末までの実績は、970施設(1,356か所)。
- ・補助対象施設は、自治公民館、社会福祉施設、民間施設(飲食店、物販施設、宿泊施設等)、市町施設。

●対象地域：佐賀県(佐賀県健康福祉本部地域福祉課が担当)



●改修前



●改修後

【喜びの声 一例】 ●「和式トイレだったからと他の店に行かれていたお得意様が、洋式になったという噂を聞いて来店してくれた」(飲食店) ●「高齢の方が集まる会が多く、以前から洋式トイレ設置の要望が住民から上がっていたものの、資金面から設置が難しく先送りしていたが、今回の補助を受け設置することができた」(自治公民館) ●「和式だと子供が使えなくて買い物も慌てて帰らないといけなかったが、ゆっくり買い物ができるようになってありがたい」(物販施設) ●「和式の時は、子供が使い方に慣れておらず汚すこともよくあったが、洋式になり汚すこともなくなった」(学習塾) ●「海外のお客様も多く、以前より要望があったが、今回補助金により洋式化することができて大変助かった」(ホテル) ●「外国の観光客が多く訪れるようになっており、トイレを洋式化したいと思っていたので、この補助制度が始まってとても助かった」(観光施設) ●「洋式トイレにしたことをきっかけに、トイレ以外の部分でも多くの方が利用しやすくなるような取組を行いたい」(病院) ●「腰の悪い方や妊娠さん、高齢の方から、今まではトイレを我慢することもあったので洋式トイレになってとてもよかったと言われている」(飲食店、物販施設など多くの施設)

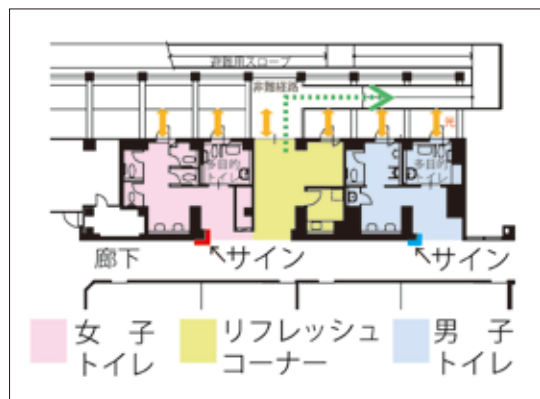


岡山県総合福祉・ ボランティア・NPO会館 “きらめきプラザ”

岡山県

障害者に寄り添う ユニバーサルデザイン

- ・旧国立岡山病院の建物を、耐震補強した上で総合福祉施設としてリニューアルし活用。
- ・障害者が事前検証に参加し、細部の使い勝手を検証するとともに、あえて自動水洗、自動扉を選択しないなど、自立を促し、使用時にリハビリとなるような障害者に寄り添うユニバーサルデザインを導入。過剰な干渉にならないよう配慮し、いつでもスタッフが支援。
- ・過剰反応しないセンサー、操作が単純な大きなボタン式を導入、色覚障害者も認識しやすい色彩・サインに配慮するとともに、男女別々の多機能トイレや幼児用便座も備えたトイレを設置。また、全てのトイレに窓を設置。
- ・利用者は年間約20万人、職員約350人勤務。



●施設所在地：岡山県岡山市北区南方
●設計：(株)竹中工務店一級建築士事務所

住み慣れた我が家で、 自分の力でトイレに行こう活動

パナソニック株式会社

高齢者の自立につながるトイレリフォーム

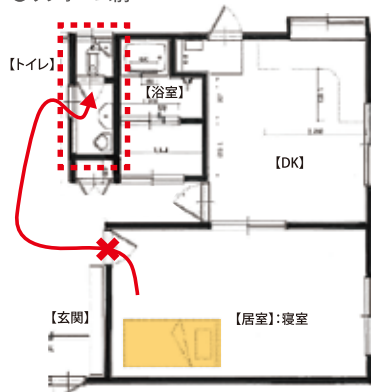
・高齢者や要介護者の「住み慣れた自宅で一日でも長く住み続けたい」との要望に対し、それぞれの身体状況や症状に合わせ、トイレリフォームを実施。
・独自のデジタルシミュレーション技術を活用した商材とリフォームプラン等の組合せによる自宅内の福祉トイレリフォームの実施と、ユニバーサルデザインの観点から開発したトイレ及びトイレ空間を提供。動線の確保や、「アームレスト付便器」などにより設計。

・介護する側の肉体的負担の軽減、介護される側の精神的苦痛の軽減につなげる。自立支援でリフォーム後に要介護度が低減した事例も。

・全国にあるパナソニックエイジフリー介護チェーン店で、住宅・介護施設用のトイレや在宅介護住宅リフォームを扱うとともに、介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、在宅介護サービス等の設立・運営も実施。

・福祉リフォーム実績は、2000年～現在までに約30万件。

●リフォーム前



〈問題点〉

- ・和式→洋式にしても間口が狭く
トイレに車椅子では入れない。

●リフォーム後



〈トイレ・洗面所と居室をつなげた改修〉

- ・寝室からトイレ洗面、浴室に安全に行ける。
- ・台所側にも開口(引戸)回遊できる。
- ・介助もしやすく、台所が近い
家事も楽に。



リフォームには
アームレスト付便器を使用



トイレ内音声案内装置
「ボッチ-Pro」

人感センサーにより、主に以下の音声案内が流れる。

- ①案内への注意喚起のための擬音、②多機能トイレ内の音声であること、③鍵の位置、④扉の締め方、⑤便座の位置、⑥入口からの方向

さらに、押ボタンにより以下の音声案内が流れる。⑦温水洗浄操作盤の位置、⑧ペーパーの位置、⑨水洗操作方法 など



便所内音声案内装置
「ボッチA」

荷物掛けフックの位置、和洋式の向き、ペーパー位置、水洗操作方法に対応。
視覚障害者の参加するイベント等のトイレに仮設置。



トイレ内音声案内装置の開発

レハ・ヴィジョン株式会社

音声装置で視覚障害者や高齢者も使いやすく

・視覚障害者が、様々な形状のトイレを混乱なく使うことができるよう案内する音声装置。2002年に多くの視覚障害者の個人や団体からの要望により、国内で初めて製品化。高齢者のボタン押し間違いの防止や、外国人への多言語案内にも対応。新製品は「ボッチUD-W」。

・視覚障害者が、横からの音で方向と距離感を掴むという特性に配慮した構造。案内ボタンを押すと聞き直し可能。

・石川県工業試験場、公益財団法人 石川県産業創出支援機構から公的支援を受けて製品化した産学官連携技術革新商品。社会福祉法人 日本盲人会連合推奨品に認定。

・地震・津波・火災が発生した際、セコムやJ-ALERT信号を受信し、設置されたトイレ内に最適な行動を最優先で誘導可能(日本語→英語→中国語→韓国語の順番)。

・空港、駅、SA、観光地等、公共施設を中心に、全国に約1,000台のトイレ内音声案内装置が採用。